

平成30年  
夷隅地域水稻生育情報  
臨時報

平成30年11月30日  
夷隅農業事務所  
改良普及課  
TEL 82-2213

## 【秋耕をしましょう】

今年も稲刈りや調製作業が一息ついたところかと思えます。収穫した後のほ場はそのままだになっていないでしょうか？

ほ場に残った稲わらを春にすき込むと、分解が遅れ、メタンガスや硫化水素などが発生してしまい、植え付け後の初期成育が悪くなります。稲刈り後できるだけ速やかに早すき込んで分解を促進させましょう。

その他秋期～冬期にかけて行う耕起は以下のような効果もあります。

### ・ジャンボタニシ対策

ほ場内のジャンボタニシは地中に潜って越冬します。ロータリーの回転を速く、2割から4割程度走行速度を遅くすることで、貝の破砕効果がより高くなります。また、 $-3^{\circ}\text{C}$ 以下では死滅するので、厳冬期の地表に晒<sup>さら</sup>させることも有効です。

### ・難防除雑草対策

「オモダカ」や「クログワイ」のような多年生雑草は、早期の秋耕によって、来年度に発生の原因となる塊茎の形成を抑えることができます。また、冬季によく乾燥するようなほ場では、塊茎を地表面に晒<sup>さら</sup>すことでも枯死させることができます。

### ・イノシシ対策

収穫後の稲から生えてくるひこばえ（二番穂）は、冬に備えて沢山食べておきたいイノシシの格好の餌場になってしまいます。集落にイノシシを誘引しないためにも、二番穂は放置せずに直ちにすき込むようにしましょう。

